



日本ピグメント株式会社

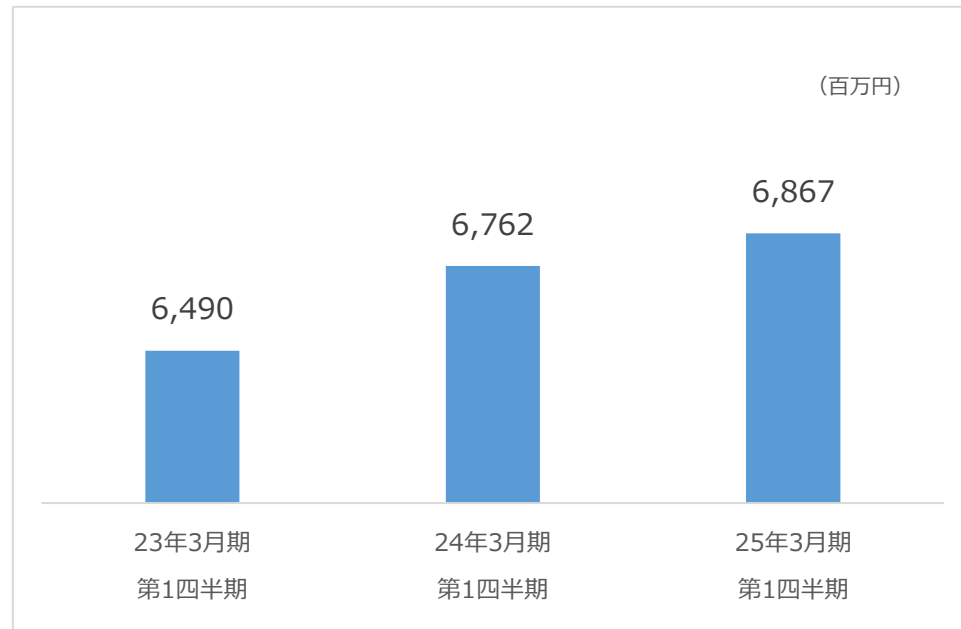
2025年3月期 第1四半期 決算説明資料

2024年8月9日

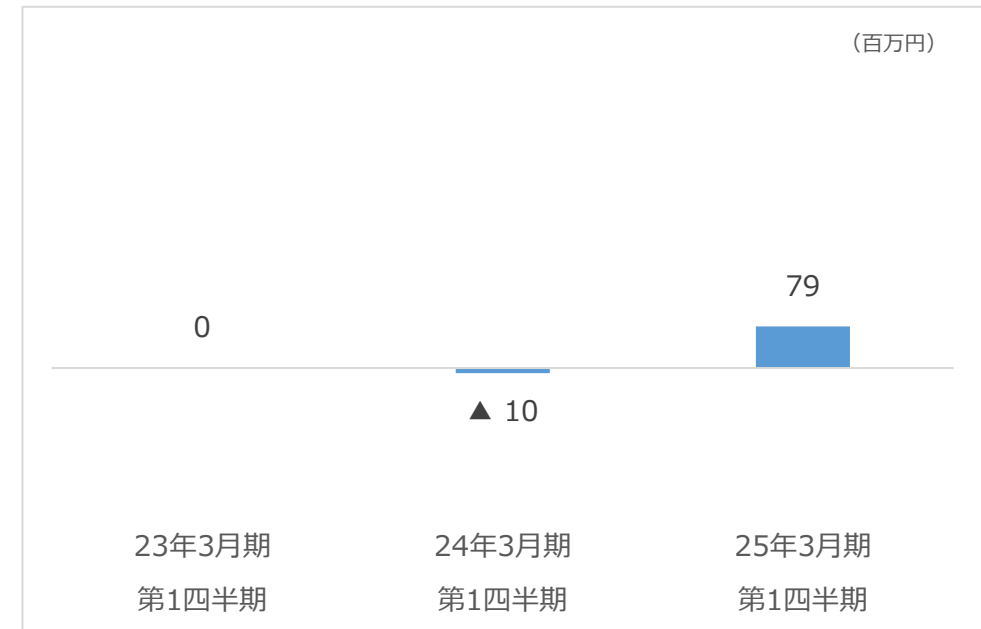
日本ピグメント株式会社

売上高は、加工カラー部門の国内販売増等により前年同期比+1.5%増
営業利益は、販売構成の変化、為替影響等により増益

売上高

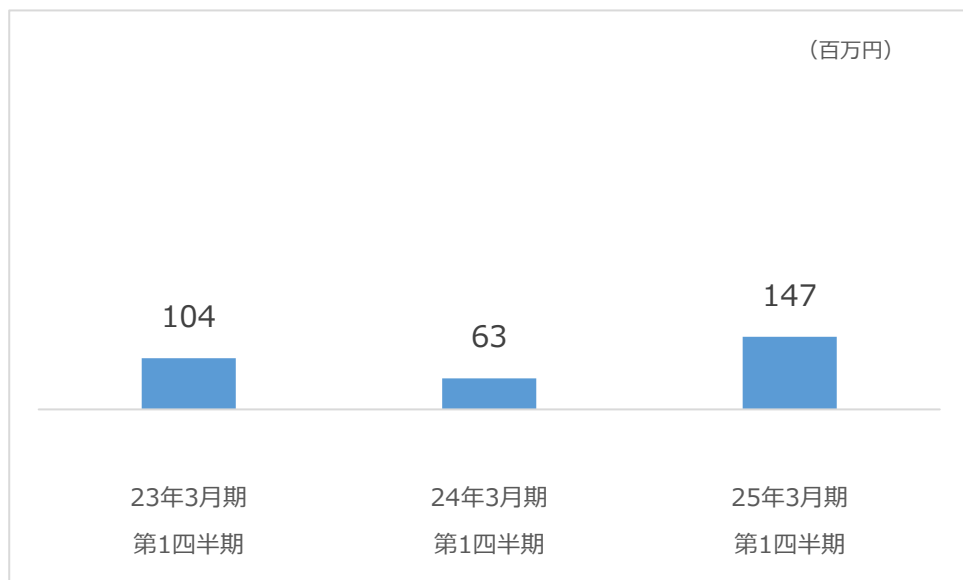


営業利益

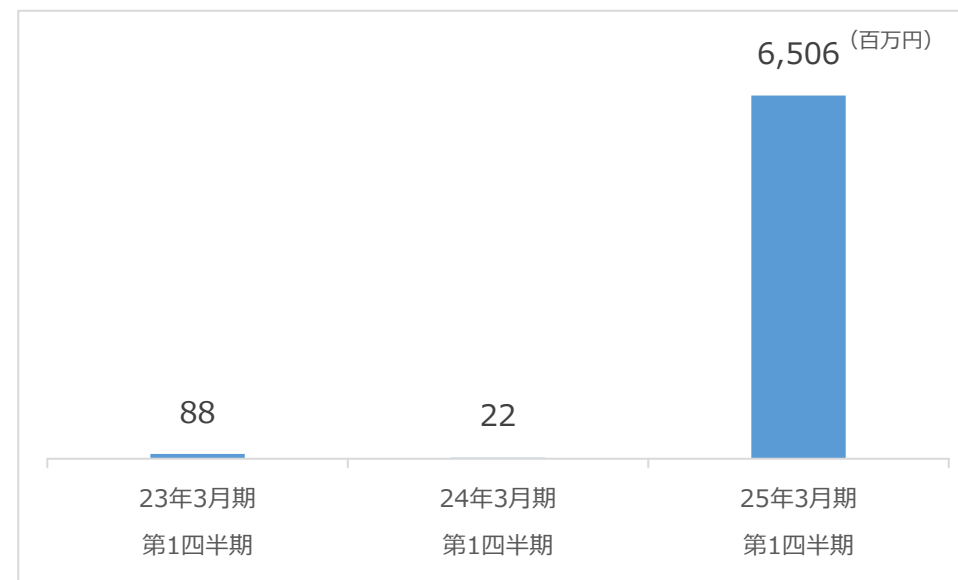


経常利益は前年同期比で増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、住化カラー株式会社の株式取得に伴う負ののれん発生益により大きく増加

経常利益



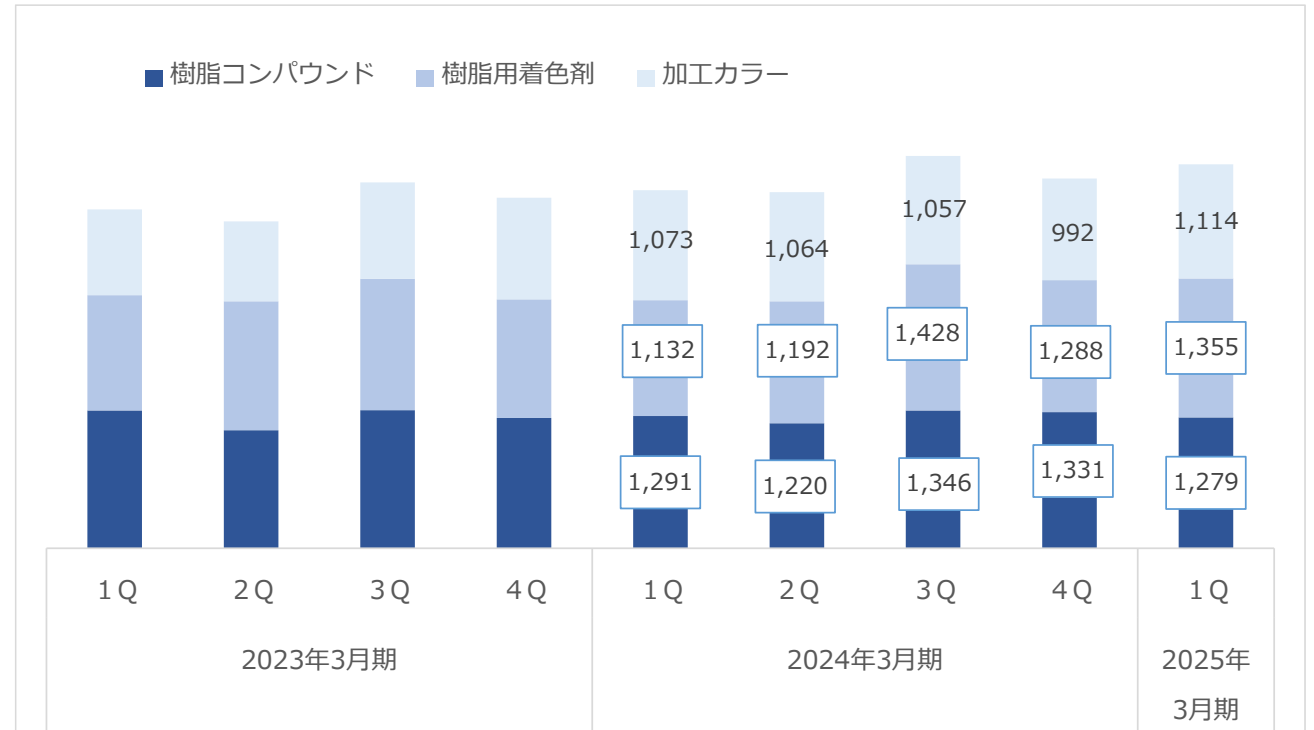
親会社株主に 帰属する 四半期純利益



① 日本

- 樹脂コンパウンド部門は、自動車用途において認証不正問題に伴う影響から販売数量減
- 樹脂用着色剤部門は化粧品・トイレタリー向けが回復。一部飲料用途も堅調
- 加工カラー部門は、建材向けが堅調推移。中小型ディスプレイ用途の回復もあり販売増

【セグメント別売上高の推移】 (百万円)

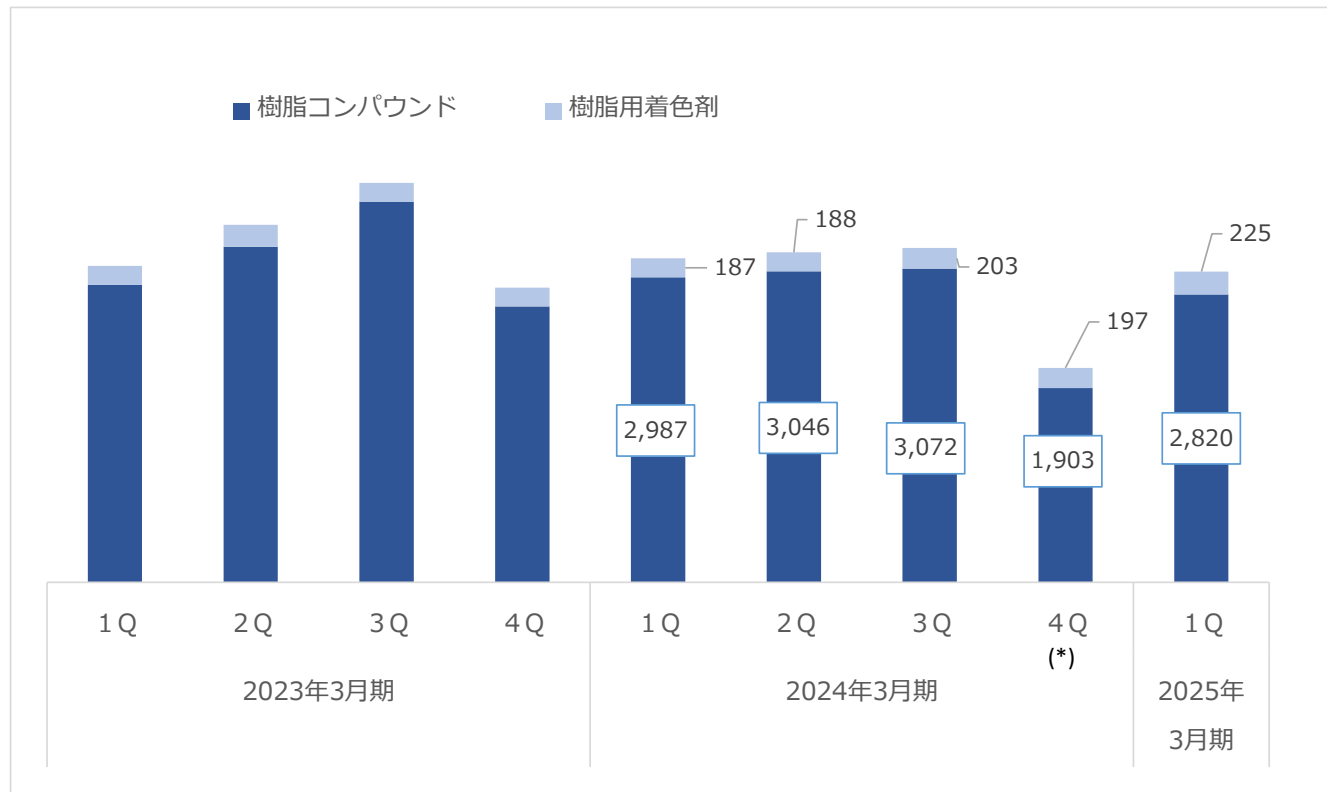


② 東南アジア

- インドネシアでの輸出入規制改正を意識した顧客の在庫確保による販売増はあったものの、最終製品の需要低迷の影響もあり、前年同期比では販売減

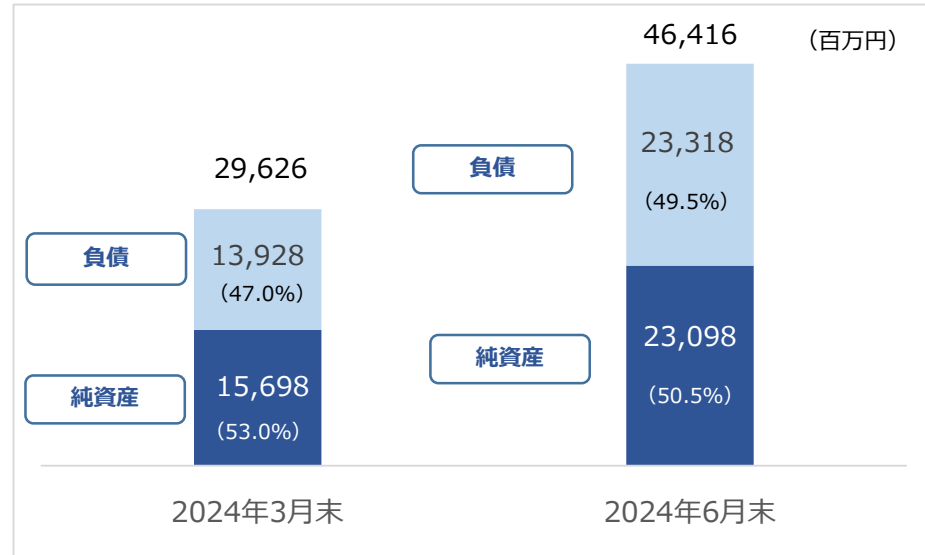
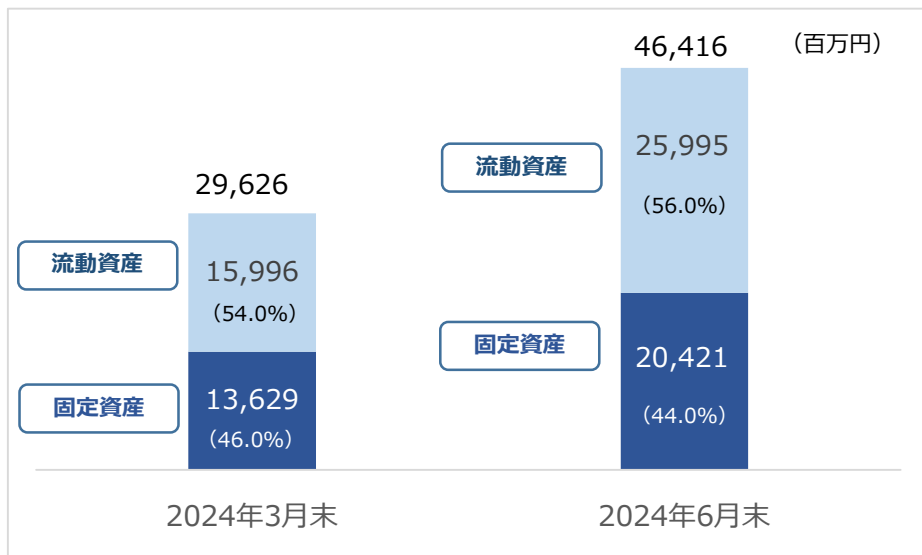
【セグメント別売上高の推移】

(百万円)



(*) 2024年3月期第4Qについては為替影響により円貨ベースでの売上高は減少

○ 住化カラークループを連結範囲としたことで総資産は167.9億円増加



資産

- 現金及び預金 +14.5億円
- 受取手形、売掛金 +48.7億円
- 商品、製品 +20.6億円
- 投資有価証券 +39.5億円 等

負債

- 支払手形、買掛金 +42.4億円
- 繰延税金負債 +10.5億円
- 退職給付に係る負債 +12.7億円 等

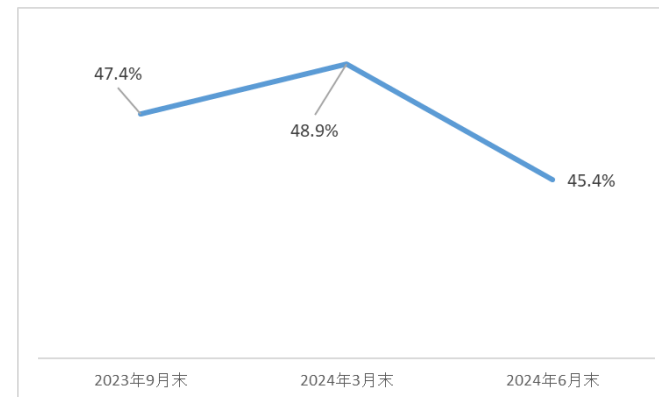
純資産

- 利益剰余金 +63.5億円 等

D/Eレシオ

0.29 (2024年3月末 0.30)

自己資本比率



- 2024年3月1日に開示いたしました「株式取得（子会社化）に関するお知らせ」のとおり、2024年4月30日付けで住化カラー株式会社の株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。これに伴い、2025年3月期第1四半期決算において、負ののれん発生益6,769百万円を特別利益として計上いたしました。
- また、現在の中国の市場動向、事業環境の悪化、住化カラー株式会社の子会社を含めた、中国国内における生産体制の効率化などを考慮し、当社の連結子会社である天津碧美特工程塑料有限公司の解散を決議いたしました(13頁参照)
あわせて、解散に係る関連会社整理損失引当金繰入額として▲301百万円を特別損失として計上いたしました。

	24年3月期	第1四半期	25年3月期	第1四半期	(百万円) 増減率
売上高		6,762		6,867	1.6%
売上総利益		787		925	17.5%
販管費計		798		846	6.0%
営業利益		▲ 10		79	-
営業外収益計		94		97	3.2%
営業外費用計		20		28	40.0%
経常利益		63		147	133.3%
特別利益計		0		6,770	-
特別損失計		0		316	-
税金等調整前四半期利益		63		6,601	-
法人税等計		24		56	133.3%
四半期純利益		38		6,545	-
親会社株主に帰属する四半期純利益		22		6,506	-

- 住化カラー株式会社の株式取得に伴う特別利益の計上、中国子会社の関連会社整理損失引当金繰入額の計上などを考慮し、2025年3月期通期連結業績予想を修正

	2024年3月期	2025年3月期 第2四半期（累計）	2025年3月期 見通し
			（百万円）
売上高	26,683	18,000	42,000
営業利益	425	100	450
売上高営業利益率	1.6%		1.1%
経常利益	648	200	600
親会社株主に帰属する当期純利益	740	6,800	7,000
年間配当／株（円）	100	—	100

- 足許の外部環境に大きな変化なく、国内では自動車減産の影響、海外では中国経済の動向に引き続き留意の要。また、日銀の金融政策変更に伴い、急激な円安傾向に歯止めがかかることを期待

日本

- 自動車向け需要は、年度を通じては、底堅い推移を見込むものの、足許の減産の影響を見極める必要。その他樹脂需要全体の回復には不透明感が残存も、下期以降の底入れを期待。また、製造関連コストの低下は見込み難いことから、グループ全体で生産効率向上に向けた施策を推進
 - ・ 樹脂コンパウンド部門は、下期以降の樹脂需要回復を期待
 - ・ 樹脂用着色剤部門は、飲料向け、化粧品向け等を中心に幅広い用途での販売増を目指す
 - ・ 加工カラー部門は大型パネル用途向け需要の堅調推移とともに、建材向け用途等、内装材関連等での販売増を目指す

東南アジア

- 中国経済動向に不透明感が残るものの、東南アジア各国の内需向け販売増など、増収を目指した運営を継続

中国

- 日系向け販売の回復は当面見込めず、中国地場メーカー向け販売を強化

シナジー効果の早期実現



PRODUCTION

**生産効率化の推進
最適な生産体制の実現**

【具体的施策】

- ① 中国3拠点の最適化に向けた再編検討
- ② 国内拠点の「スクラップ&ビルト」
 - 大阪地区等の再編計画の策定・実行



RESEARCH & DEVELOPMENT

**新規領域でのスピード感
ある上市体制の構築**

【具体的施策】

- ① 両社の開発部門の協業体制構築
 - 2024年度から人事交流を開始
- ② 半導体向け等の金属材料の上市



SALES SEGMENTATION

拡大した製品ラインナップの活用

【具体的施策】

- ① マスターバッチ販売の強化、拡大
 - 多様な用途への対応力強化
- ② 東南アジア地域でのマスターバッチ販売の強化

**両社のシナジー効果の早期実現により
2027年度の営業利益目標を25億円に設定、達成を目指す**

● 中長期的施策を実現するためのPMIの進捗状況について（100日プラン）



生産



営業・購買



研究開発



品質保証

ビジネス基盤の強化

コスト削減、合理化

- 生産拠点の合理化検討に着手
- 外注コスト削減策の立案
- 副資材や消耗品費の削減、購入合理化の推進

- 一体的な購買体制の構築に向けた検討を開始
- 輸送、保管コスト削減案を策定中

- 人材交流に向けた準備を開始

製品の品質・安全保証の双方改善

- 従来の両社の活動を軸に、双方継続的な改善の為のアクションを計画

サステナビリティ対応を含む新たな取り組み

環境活動の推進

- 産業廃棄物削減計画を推進
- 環境に関する双方サステナビリティ対応の取りまとめを実施、継続中

次世代型生産体制の推進

- DX, IoT関連
(現行使用のノーコードツールや材料照合システムの両社活用を模索、次世代型の業務設計を推進)

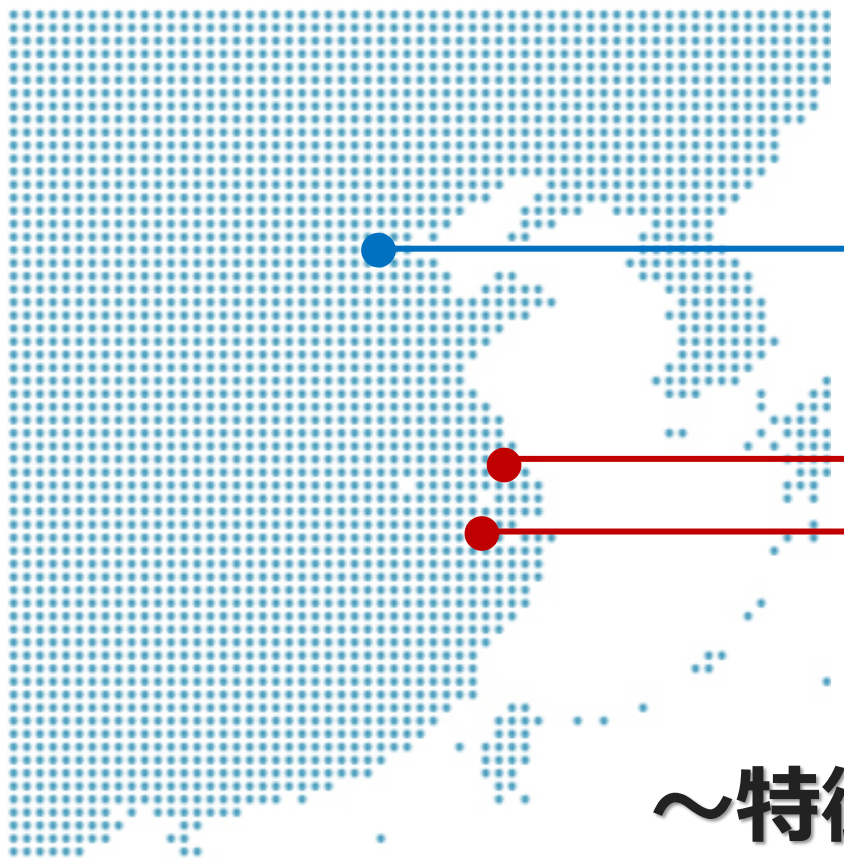
新規領域開拓

- 新規顧客獲得、販路拡大を目指した計画を策定
- 半導体/電子材料用途で期待されるグラフェン、カーボンナノチューブ等の先端素材を用いた液体分散体開発を主軸とする創造領域の新規検討と、樹脂系以外の既存領域の合理化を進める



ビジネス基盤の強化とサステナビリティ対応を含む新たな取り組みの組み合わせによる100日プランを実施中、
➔ 100日プラン後の継続的PMI計画の策定をし、2027年度の営業利益目標達成に向けた積極的な活動を継続

中国子会社の再編について（今後の方向性）



天津碧美特工程塑料有限公司の解散について

中国ではEV車拡大を背景に日系自動車企業の回復が厳しい状況が続く推測

➡非自動車産業への販路拡大に注力をしていく事業再編を目指し
 当社は各中国拠点をも最適化するための再編の一歩として、天津碧美特工程塑料有限公司の解散を決議いたしました(7頁参照)

今後、天津碧美特工程塑料有限公司生産品は上海、南通地区へ適宜振り分けながら供給体制の見直しを進め、中国国内向けの拡販強化を目指します。

住化佳良精細材料(南通) 有限公司

上海金住色母料有限公司

～特徴を持たせた工場運営体制へ～

	●天津碧美特工程塑料有限公司	●住化佳良精細材料(南通)有限公司	●上海金住色母料有限公司
生産品	コンパウンド マスターバッチ	✓ マスターバッチ	✓ マスターバッチ
用途	車輻	✓ 車輻	フィルム、飲料、太陽光パネル材料
向け先	日系メーカー向け	✓ 日系メーカー向け	中国国内向け

(各中国拠点の主な事業)

- 本資料は、投資家の皆様に会社内容の理解を深めていただくための資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません
- 記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、及び当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません
また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります

色のプロフェッショナルとして100年 -since1925-



日本ピグメント株式会社